

センターだより

令和5年6月15日

No. 77

東濃西部少年センター TEL23-3455 FAX26-8813

所 長 今 井 宏 明
指導主任 松 澤 朗
事 務 石 橋 牧 子

「帰りたい家庭・通いたい学校・住みたい地域」

令和5年度がスタートしました。

去年は、少年センターの活動も「新型コロナウイルス感染症」の影響による自粛傾向が少し緩和され、予定されていた各行事を実施することができました。しかし、指導員の方々に行っていただいている「声かけ活動」においては、熱中症対応なども含め、班メンバーの方々の体調などを考慮し、慎重に取り組んでいただいています。

今年度の活動におきましては、「安心・安全な毎日の暮らし」が戻り、通常通り実施できることを願っています。

この地域に暮らす子どもたちには、健康で、明るく、元気に逞しく育ってほしいです。そのためにも、子どもたちにとって、「家庭」「学校」「地域」が温かみのある居場所でありたいです。

「早く帰りたいと思える、温かみのある家族と暮らせる家庭」
「楽しいと思って、安心して通い続けられる安全で夢のある学校」
「いつまでも、長く住み続けていたいと愛着がもてる地域」

子どもたちが心穏やかに、楽しく、安心して過ごすことができるよう、「家庭」「学校」「地域」で暮らす者たちが、それぞれの立場で知恵を出し合い、工夫しながら子どもたちと接していきたいです。そんな毎日の暮らしの中で大切にしたいこと・・・。

それは「家庭・学校・地域が協力し連携し合う」ことです。

言い換えれば、「仲良く、協力する」ことです。当たり前のことかもしれませんが、この「当たり前のこと」が、日常の生活の中で忘れ去られてしまうことも、当たり前のように起きてしまっています。

子どもたちを取り巻く環境を整えるため、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、教育委員会、警察署、その他多くの関係機関がそれぞれの立場で、熱心に取り組んでいただいています。

少年センターとしても事業の一つとして、「少年指導員」として委嘱をさせていただいた地域の方による「声かけ活動」を行っています。

お住いの近くの地域を中心に回っていただいている指導員の皆様方のおかげで、子どもたちの安全は守られ、安心して暮らすことができます。子どもたちの安全と共に、指導員の皆様方におかれましても、事故やけがに十分注意して無理のない中で声かけ活動を行っていただきますようお願いいたします。

少年センターとしては、指導員の方々の「地域の子どもたちを愛する思い」などを大切にし、そうした活動を広く伝え、多くの方々に知っていただくようにしていきたいです。

「高校生（瑞浪高校）（多治見西高校）による啓発活動」

4月21日午後3時40分から、瑞浪駅前で「青少年地域で守ろう 育てよう」という願いをこめて、東濃西部少年センター作成の「モバイルクリーナー」を瑞浪駅利用者の方々に配布しました。配布してくれたのは、瑞浪高等学校の2年生のメンバー10名です。生徒の皆さんが笑顔で声をかけていると、瑞浪市内在住の一人のご婦人が「瑞浪高校は歴史のある高校だからね。」と語りかけられ、高校生との会話を楽しんでみえました。



5月11日から4日間にわたり、多治見西高等学校3年生約100名の生徒の皆さんと先生方が「春の交通安全運動」を兼ね、学校周辺の歩道橋・交差点付近、小泉駅などで挨拶運動を実施されました。

多治見西高等学校では例年、計画的にこうした啓発活動を熱心の実施してみえます。今年度も年に4回（16日間）の予定で実施されるようです。

今回は3年生の生徒さんが爽やかな笑顔で挨拶を交わしていました。

「岐阜県少年補導部会（WEB会議）」より

5月11日に「岐阜県青少年育成県民会」主催の「少年補導部会」が行われました。今回の会議は昨年に引き続き、感染防止のためWEB会議で行われ、参加者は主に岐阜県内の少年センターの職員で、18名の者が約1時間30分に渡って、意見交流などを行いました。ここ3年間、コロナ禍のために活動自粛が続いていましたが、少しずつ緩和され、子どもたちを取り巻く街の様子も少しずつ変化してきているようです。

意見交流の際、岐阜県内の各センターの共通する意見としては、「コロナ禍の中でも巡回活動をしてきているが、子ども達と出会うことがまだまだ少ない。」というものでした。このことは、指導日誌にも多く書かれています。確かに、そうした傾向はみられますが、多治見署の方のお話では、「指導員の方々が黄色いベストと帽子を着用して街を歩いてくださることが、不審者発生の抑止力になります。」ということでした。

WEB会議の後半には、「青少年を取り巻く環境」と題して、岐阜県警察本部生活安全課少年部の方からの講話を聴きました。その際、講師の方からは、「少年非行は近年、減少してきている。一方、児童虐待は増加傾向にある。」というお話でした。

児童虐待から生じる「子どもの心のひずみ」から、非行とは異なる『自傷行為』や『ネットで優しくしてくれる人への依存』などにつながっている傾向にあり心配であるとのことでした。そうした心配の解消の一つとして、「地域の方々とのつながりはとても大切です。」とも言われてみえ、「指導ではなく声かけ」という取り組みは、今の社会においてはとても重要のようでした。

「ホームページの紹介」

「東濃西部少年センター」の活動状況のお知らせがホームページに掲載されています。
「東濃西部広域行政事務組合」のサイトに入っていますので、よろしければご覧ください。
ホームページを見られる際には、「東濃西部少年センター」で検索してみてください。

「東濃西部少年センターへの相談・あれこれ」

岐阜県内や多治見・瑞浪・土岐の中には、いくつもの相談窓口があります。それぞれ特徴がありますが、東濃西部少年センターにおいては主に「相談」が中心になっており、「電話」「メール」「来所」など、様々な形態で活用していただいています。

東濃西部少年センターでは、「悩みごと相談」だけではなく、私たちが暮らす街の様子などから、「明るい話題」もお知らせいただくよう、呼びかけてきました。各高校の生徒さんからも「私たちの学校では、こんな活動をして、地域の方に喜んでいただいています。」などの連絡をもらうことも多くなってきています。

もちろん、「悩みごと」として相談してくださることが多く、その内容の傾向としては、「家庭でのこと」と「学校でのこと」が多いです。そして、その大半は「本来なら、家族や学校の先生に相談できると良いこと」が中心です。しかし、「家族に心配をかけたくない」「先生にどうみられるか不安」など、第三者に助けを求めてくるケースが多いようです。

少年センターでは、相談者の方の話をじっくり聞いた上で、相談者の力になれたらと思いついて対応しています。しかし、容易く解決するような問題ではないこともあり、できるだけ「相談者の身近で、親身になって寄り添っていただけるはずの家族や先生に苦しい胸の内を相談すること」を勧めるように努めています。決して、無理強いはしませんが、多くの相談者に共通することとして、「本当は、身近な人に聞いてほしい。分かってほしい。助けてほしい。」という相談者の思いを感じる人が多いです。

これまでも、少年センターが「家族の方や学校の先生への橋渡し」を行うこともありました。どの家庭、そして学校も、快く受け止めていただき、早期解決につながるケースが多いです。改めて、連携の大切さやその力の大きさを感じています。そして、相談後に、「初めは相談しようか迷ったけど、思い切って相談してよかった」と言われる方や、相談後に、再度連絡をいただき、「あの時はありがとうございました。今は悩みも解決して楽しく過ごしています。」というお言葉を聞かせていただけることがあり、とても嬉しいです。今後も、家庭・学校・地域との連携を大切にしながら、少年センターを利用して頂き、「橋渡し」をさせていただけるようにしていきたいです。

私たちの街に暮らす子供たちの笑顔、健やかな成長のために、見守っていきたいです。

「帰りたい家庭・通いたい学校・住みたい地域」

☆「楽しい話題」「伝えたい情報」「ちょっとした悩みごと」

(身近な出来事など、連絡・相談ください)

「東濃西部少年センター」

0120-873-246 (携帯からもOK)

anshin55@crux.ocn.ne.jp (24時間受付)

相談時刻・メール返信は、10時～17時(日・月休み)

「令和5年度 少年指導員委嘱式」

令和5年5月13日（土）「瑞浪市総合文センター」において、令和5年度の東濃西部少年センター「少年指導員委嘱式」を開催致しました。



今年度は、瑞浪市長の水野光二様、瑞浪市教育委員会教育長の伊藤慶和様、多治見警察署生活安全課係長の長屋智則様をご来賓にお招きしての開催となりました。

指導員の方々には、お忙しい中、多数ご出席して頂き感謝しています。

本年度、三市の地区長をお願いします、「小倉昌春様」「三宅滋郎様」「鬼頭博英様」よろしくお願い致します。

地区別会議において「班長」をお願いした方には一年間お世話いただきますが、よろしくお願い致します。

また、各地区指導部役員の方々には、会場準備並びに後片付けなど、お手伝いいただき、ありがとうございました。

多治見警察署の長屋智則係長様のお話「少年非行の概況」では、「少年非行については、三市共に減少しており、とても落ち着いてきている」というお話がありました。しかし、岐阜県内では、特にSNSによる性的被害の問題が増えてきており、心配されているとのこと。青少年の健やかな成長を願い、落ち着いた街づくりにおいて、皆さんに日々行っていただいている「声かけ活動」は、とても大きな影響を与えていただいています。「何気ない一声」「笑顔のあいさつ」が、温かな街づくりにつながっているのです、よろしくお願い致します。



尚、委嘱式の前に長年指導員として活動していただいている方々の「表彰式」を行われました。

以下に表彰された方々の紹介をさせていただきます。 ※敬称略

☆所長表彰（指導員3年）

【多治見地区】	青木謙太郎	岩本眞知子	宮島 信明	宮嶋 好彦
【土岐地区】	佐長谷幸子	林 孝正	林 美智子	

☆管理者表彰（指導員5年）

【多治見地区】	各務 功治	高橋 重久	谷口 洋二	知原 重樹
【瑞浪地区】	丸山 和宏	横井美佐子		

☆管理者表彰（指導員5年以上で退任）

【多治見地区】	石田 俊浩	加藤 峯子	白石 清	服部 克彦	村瀬 正一
【瑞浪地区】	小栗 計久	小倉 永次			
【土岐地区】	斎藤 真之	山下 宏美			